



2008年度3キャンパス合同イベント

「秋の比婆高原交流会」レポート

生命環境学部 楠堀誠司

【プログラム概要】

プログラムの概要は、初日（11月8日）の日中は庄原キャンパス体育館を使って、参加者同士がお互いを知り合い、うちとけるためのゲーム（アイスブレイキングゲーム）を行いながら、夜は宿泊施設である「高原の家七塚」の体育館を利用して、庄原市永江太鼓保存会の方々との交流会、そして二日目は、「ひろしま県民の森」にて比婆山系ハイキングでした。

【活動内容】

参加にあたって、参加者にはニックネームを考えてきてくれるよう頼みました。普段の自分を離れて、参加者同士がフラットな関係で活動できるための環境整備です。アイスブレイキングゲームでは、名前を覚えるゲームとして「ネーム・トス」などを行い、その後触れ合いやお互いを知るためのアクティビティとして、お互いが手を合わせながら体操を行う「ミラー・ストレッチ」や、パートナーや仲間と協力して立ち上がる「いっせえの!」、何かしたことがある人を探す「Have you ever」などを行いました。こうしたアクティビティは、お互いを知り合いながらより良い活動を行うために準備していたもので、参加者が普段の自分から離れて、お互いに楽しく活動できることを目標にしていました。実際に活動してみると、なかなかおもしろい活動ができていいるなあという実感があつたので、参加者全員でひとつの活動を行う「フラフープ・リレー」や「人間知恵の輪」にも挑戦してみました。参加者からの発言は予想以上に活発で、「人間知恵の輪」は20分程の格闘の末ほどもできなかったことに対して、残念だったという表情や発言がみられ、これはいいなあと強く感じ、夜になったらある提案をしてみようと思いを決めました。

永江太鼓保存会の方との交流会は、まず20分ほど演奏を聴かせていただき、その後参加者がバチをもって実際に太鼓をたたきながら悪戦苦闘、基本となるたたき方を徐々に習得し、最後は皆で3分程度の合同演奏会！をクリア？して終わりましたが、なかなか興奮冷めやらず、参加者のひとりが「今夜は興奮して眠れないですよ!!」と充実した目で話してくれました。



永江太鼓保存会との交流

その後、寝る前に今日一日の振り返りの時間を持ち、その場で「ザ・タワー」の提案をしました。翌日のハイキングコースにある池ノ段という草原状の場所で、「ザ・タワー」をやってみ



ザ・タワー！

ませんかと。

翌日のハイキングは、県民の森に到着する頃にはかなり気温が下がっていて、ローペースでのハイキングとなりました。参加者個人それぞれのペースで進んでも問題にならないコースで、時折歌を歌ってゆっくり進みました。途中の通過地点でかなり時間を消費していることがわかったので、目標を修正して、早めにお昼を済ませ、池ノ段での「ザ・タワー」を目標に据えました。池ノ段に到着して、挑戦したいと手を挙げてくれた4人が次々と「ザ・タワー」を成功させました。大勢いた中高年のハイキンググループもきっとびっくりされていたに違いないと思いながら、「ザ・タワー」ができた幸せを感じていました。「ザ・タワー」は誰でもできるものでは

なく、よいグループでなければ単に危険であるともいえます。よいグループでできると判断し、それが成功できて本当に幸せだと感じました。

下山後は最後の振り返りです。「別れの花束」にお互いメッセージを書き連ねて、暖かいものをもって帰宅です。

【おわりに】

初の試みでしたが、実際に「やってみてわかること」がたくさんあったように思います。来年度以降は今年の結果を修正しながら、もっとよい活動にすることが目標です。

このプログラムの実施にあたっては、広島キャンパスの中瀬古哲先生、五條小枝子先生、三原キャンパスの塩川満久先生、加茂陽先生のご協力をはじめ、多くの方々のご協力をいただきました。また、藤井保先生にはご寄付をいただきましてありがとうございました。この場をお借りして御礼申し上げます。

